

**三重とこわか国体・三重とこわか大会
実行委員会**

第9回 式典専門委員会



**令和2年 11 月 19 日（木）
三重県勤労者福祉会館6階 研修室**

三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会

第9回 式典専門委員会 次第

日時：令和2年11月19日（木）10時00分～12時00分

会場：三重県勤労者福祉会館6階 研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告事項

【説明・報告事項1】開催準備経過・・・・・・・・P 1

【説明・報告事項2】新型コロナウイルスを踏まえた開・閉会式の見直しについて・・・・・・・・P 2

【説明・報告事項3】三重とこわか国体・大会炬火トーチ、
炬火受皿制作状況について・・・・・・・・P 5

4 審議事項

審議事項以下は非公開のため省略

說明 · 報告事項

三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会 開催準備経過

年度	月	日	開催準備	主 な 内 容
令和 2 年 度	5	15	第5回宿泊専門委員会の開催（書面議決）	「国体宿泊要項（三重県案）の改正」（案）、「大会宿泊要項の改正」（案）について審議し、決定
	6	1	第15回市町連絡調整会議の開催	「荒天時対応」、「観戦ガイドブック」等について説明
	6	19	鹿児島国体（大会）の開催延期が決定	日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会、スポーツ庁、鹿児島県に4者より、「今年秋は開催せず延期することとする」旨を発表
	6	30	第15回総務企画専門委員会の開催	「大会参加章等のデザイン（三重県案）及び入賞メダルのデザイン」（案）、「特別招待者の範囲」（案）等について審議、決定し、「会場地市町における競技日程の変更」（案）、「会場地市町における開催施設及び競技日程の変更」（案）について審議
	6	30	第4回全国障害者スポーツ大会専門委員会の開催	「実施要綱」（案）、「競技実施要項」（案）、「リハーサル大会競技実施要項」（案）について審議し、決定
	7	17	第16回総務企画専門委員会の開催（書面議決）	「会場地市町における競技日程の変更」（案）、「会場地市町における開催施設及び競技日程の変更」（案）、「会場地市町における開催施設の変更」（案）について審議
	7	17	三重とこわか国体実施要項（総則）等の決定等	日本スポーツ協会 国体委員会において第76回国民体育大会の「実施要項（総則）」、「デモンストラーションスポーツの競技会場変更」の決定及び「輸送・交通要項」、「宿泊要項」の承認
	8	4	第3回総会の開催	「事業報告」、「収支決算」等について審議し、決定及び「会場地市町における競技日程の変更」、「会場地市町における開催施設及び競技日程の変更」、「会場地市町における開催施設の変更」について審議
	9	10	三重とこわか国体競技別会期及び競技会場の変更等の決定等	日本スポーツ協会 国体委員会（文書提案）において第76回国民体育大会の「競技別会期及び競技会場の変更」、「大会参加章の意匠」の決定
	9	25	鹿児島国体（大会）の2023年開催が決定	鹿児島国体（大会）の2023年開催及び佐賀県以降の1年延期が決定。 ※佐賀県（2024年 第78回大会）より名称が「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」に変更
	10	14	第3回常任委員会の開催	「三重とこわか国体・三重とこわか大会 開・閉会式会場の変更」について審議

新型コロナウイルス対策を踏まえた開・閉会式の見直しについて

三重県においては新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、過去２年かけて策定した「式典基本計画」「式典実施計画」をゼロベースで見直し、新たな開・閉会式の演出プランを検討している。

見直すに至った経緯や状況については以下のとおり。

１ 式典見直しに係る主な意見

専門家	関係機関
<ul style="list-style-type: none"> ○選手をいかに感染から守るか。万が一感染が発生してもどうすれば各競技会を継続できるか ○アフターコロナの視点でシンプルな式典を検討すべき ○クラスターが発生した場合、濃厚接触者をどの範囲で特定するのか。選手団と他団体と他参加者の接触を減らす工夫を講じること ○コロナ対策に対する社会・世論の受け止め方（どこまで対策を講じたのか）の視点が重要 ○東京オリパラの動向を注視すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本はガイドラインに則した対応 ○３密を避けるのであれば、広い競技場で少人数の式典も検討 ○式典演技なしもあり得る

２ 見直しに係る基本的な考え方

専門家や関係機関との協議を踏まえ、両大会全般にわたる見直しを実施する。

①競技会への影響排除	選手を式典会場から物理的に分離 開・閉会式会場で競技会を行わない
②徹底的な感染防止対策	式典演者の３密回避、飛沫防止対策 全ての客席でソーシャル・ディスタンスの確保
③参加者削減による感染リスクの低減	来場する全ての参加者（選手、演技者、招待者、観覧者）を大幅に削減

３ 式典会場の見直し

競技会（陸上競技）へ影響させないこと、また、式典規模の縮小により会場を変更

【変更前】 三重交通G スポーツの杜 伊勢陸上競技場（伊勢市）

【変更後】 三重県総合文化センター（津市）

4 新しいかたちでの開・閉会式（国体開会式）

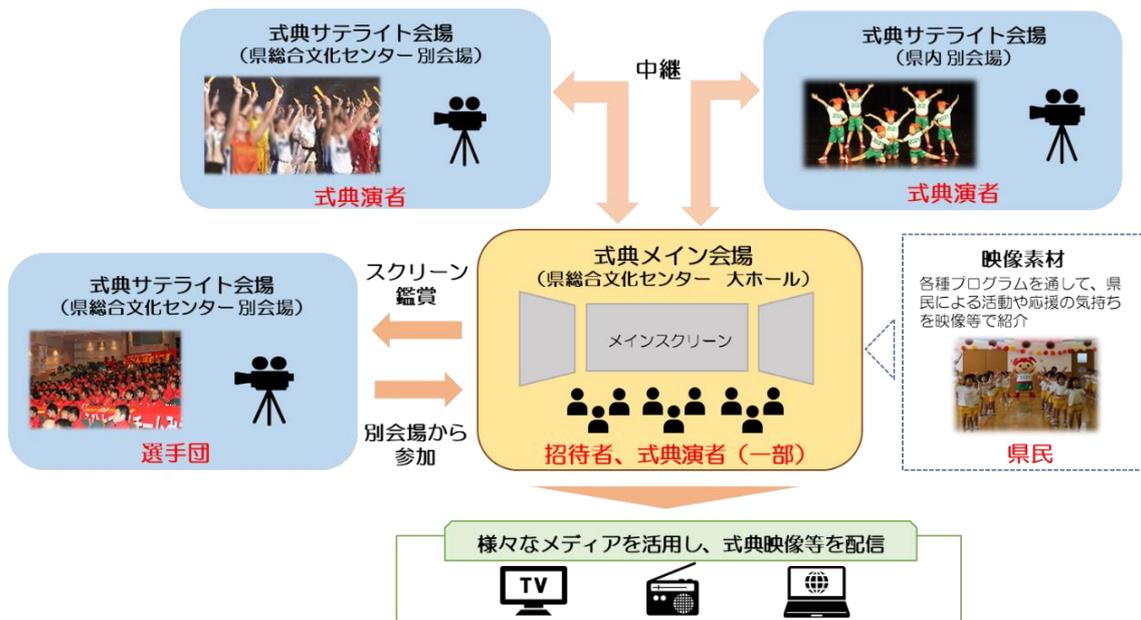
開・閉会式会場の変更に伴い、長時間の式典は感染リスクを高めることから式典参加者や式典時間を大幅に削減する。

また、「密」を避けるため、県総合文化センター内の各会場を活用し、招待者や式典演者と選手団を分散し「オンライン」で式典を実施する。

「式典時間及び式典参加者」

	式典時間	観客者数	式典関係者数	選手参加者数
先催県平均	約 4.5 時間	約 12,000 人	約 4,100 人	約 4,900 人
三重県総合文化センター	約 1.5 時間	約 300 人	約 250 人	約 250 人

「オンライン式典イメージ」



5 開・閉会式会場のイメージ

【メイン会場（大ホール）】



スポーツの祭典である両大会の式典を文化施設で開催するにあたり、様々な技術と演出を駆使し、会場を「バーチャル陸上競技場」とした式典を実施

【選手団紹介イメージ】



オンライン参加となる選手団を、デジタル技術を駆使しバーチャルのスタンド席に着席

【式典演技イメージ】



オンラインによる演技パフォーマンスと映像技術を掛け合わせた感動の演出

三重とこわか国体・大会炬火トーチ、炬火受皿制作状況について

開・閉会式における炬火点火や各市町の炬火イベントで使用する「炬火トーチ」および「炬火受皿」については、令和2年3月23日の知事定例記者会見でデザインを公表し、炬火トーチデザイン受賞者の表彰式を開催しました。

今年度については、炬火トーチ、炬火受皿の量産を行い、各市町に配布するとともに、炬火受皿組立イベントの開催等のPR活動を予定している。

1 デザインの公表および炬火トーチデザイン受賞者表彰式



(日 時)

令和2年3月23日(月) 11:45~12:00

(場 所)

県庁プレゼンテーションルーム

(入賞者) 受賞当時

最優秀賞 鈴木真梨子さん(津市 デザイナー)

優秀賞 山口 賀史さん(四日市市 デザイナー)

優秀賞 阿南早成香さん(飯野高等学校1年)

2 炬火トーチ、炬火受皿デザイン、制作状況について

炬火トーチ	
	試作品制作：三惠工業株式会社（鈴鹿市） (デザイン解説) ○全体カラーは紅白で縁起の良さを表現 ○トップ部分は三重の海や山をイメージ ○中央部分は県の伝統工芸である伊勢型紙をイメージ
	制作受注業者：三惠工業株式会社（鈴鹿市） 制作期間：令和2年6月1日～令和2年10月30日
	制作本数：75本
炬火受皿	
	試作品制作：みえ森林林業アカデミー、 県工業研究所、県林業研究所 (デザイン解説) ○前回国体(S50)で使用した炬火受皿デザインを踏襲 ○神社建築をモチーフとしてデザインに木組みを採用 ○木材は前回国体(S50)時に植樹したヒノキを使用
	制作受注業者：(木材部)森林組合おわせ(尾鷲市) (受皿部)三惠工業株式会社(鈴鹿市)
	制作期間：令和2年7月13日～令和2年11月30日 制作台数：37台

3 炬火トーチ、炬火受皿のPR活動について

令和2年9月15日に県庁県民ホールで、炬火トーチ、炬火受皿の展示を開始し、各県庁舎にて展示を順次実施予定。

また、各市町での展示（8市で開催11/16時点）や、各種イベントを通じたPR活動を行うことを検討しており、両大会の開催に向けた更なる機運醸成を図っていく。

4 炬火イベント

県民自らの手で採火する「炬火イベント」は、県内全市町で実施するとともに、県民の応援の気持ちを炬火に込めて伝えられる機会となるなど、両大会の機運醸成につながる大切なイベントである。

このため、式典の大幅な見直しを行うこととなったが、炬火イベントは当初の予定どおり、令和3年4月から8月までの間に実施する。

5 今後のスケジュール

日時	内容
令和3年1月中旬～2月中旬	炬火イベント実施内容調査（最終）の実施
令和3年2月下旬	市町担当者説明会（炬火用具の配付）の開催 県ホームページに掲載、報道提供等
令和3年4月～8月	市町炬火イベントの開催
市町の採火終了後から国体開會式 当日（9月25日）まで	集火式の開催
令和3年9月25日（金） 国体開會式	式典 炬火点火